



## 公共部門の人材育成を目指して

京都大学法学研究科 教授  
秋月 謙吾

JIAMと私のかかわりは古く深い。平成15年5月以来現在にいたるまで、教科問題懇談会の座長を務めさせていただいており、研修内容について検討、提言を行ってきた。時代とともに変化する研修の世界において一研究者として時には乱暴な意見を申し上げてきたが、それらにも常に真摯に耳を傾けていただいていることに感謝したい。

それ以上に思い出深いのが、JIAMと京都大学公共政策大学院との組織的な連携である。その構想は、実は木寺久学長（平成14年2月～18年6月）、諸橋省明教務部長（平成16年1月～18年3月）の時代にまでさかのぼる。お二人と杯を傾けながら、当時まだ設置に至っていなかった公共政策大学院とJIAMがどのように協力ができるかについて真剣に夢を語りあったことが昨日のこのように思い出される。

遠足で一番楽しいのは前日、とはよくいったもので、実際に公共政策大学院の設置にかかわってみると、それは私にとって今でも夢でうなされるくらい困難な経験であった。単に行政組織を研究対象としているからという単純な理由で、パートナーである経済学研究科を含めた学内の調整、設置審議会に先立つ文部科学省との折衝、実務家教員のリクルート、カリキュラム文案の作成などに忙殺されることになってしまった。しかしなんとか設置までこぎつけることができたのも、JIAMという存在が私にとって強力なモラルサポートとなっていたのではないかと考えている。

両組織の相互協力が本格的に具現化するのには、平成21年度に始まる京都大学公共政策大学院・JIAM連携セミナーの開催である。私も第1回連携セミナー「公共空間における人材育成～地域を元気にするひとづくり～」において、基調講演「これからの地域に求められる人材と人材育成」とパネルディスカッションのコーディネーターという重責を担わせていただいた。その際に、パネリストの一人として、公共政策大学院1期生の手嶋隆行氏（福岡県職員）に登壇してもらったことも懐かしい。以来毎年、会場を京都と唐崎で交替しながら今日までセミナーが成功裏に行われているのは何よりもうれしいことである。

現在私は籍を外れているが、この公共政策大学院もすぐれた教授・講師陣、そして学生諸君の努力によってこの厳しい環境の中で何とかやってこられた。その重要な要因の一つがこうしたJIAMとの連携であったと信じている。とりわけ、長年にわたって特別教授としてJIAMと兼任で熱意をもって教鞭をとっていただいた小西敦氏（静岡県立大学経営情報学部教授）にはお礼の言葉もない。

大学と行政という異質な二つの組織の協力はやさしいことではない。しかし、公共部門の人材育成という志を共有していた我々にとっては、ごく自然な形で連携を進めることができたのではないかとと思う。今後より一層発展的かつ体系的な連携を模索されるよう願っている。

山積する政策課題、財政の逼迫など環境はより厳しくなることが予想される中、JIAMが地域のニーズに即した教育研修の場として今後一層期待される役割を果たされることを祈念して拙文を閉じることとする。